

2018年3月30日

## トータルで省エネルギーに優れた住宅を選定する表彰制度 『ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2017』において 3ブランドで『優秀賞』と『特別優秀賞』など各賞受賞

株式会社LIXIL住宅研究所

株式会社LIXIL住宅研究所(本社:東京都江東区/代表取締役社長:今 城幸)では、このたび、一般財団法人日本地域開発センター(主務官庁:国土交通省)が主催する、省エネルギー性の優れた住宅を選定する表彰制度「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2017」において、アイフルホームの『セシボ』、フィアスホームの『arietta(アリエッタ)』、GLホームの『WoodsHill(ウッズヒル)』の3ブランドが下記の通り受賞しました。また、アイフルホームの応募棟数が1700棟超であることが評価され「貢献賞」を受賞。さらに、3ブランドともに、5年以上の連続受賞をしているため、「特別優秀企業賞」を同時に受賞しました。

### ◆受賞内容◆

カンパニー名	アイフルホーム	フィアスホーム	GLホーム
受賞名 商品名	優秀賞 「セシボ」 ＜受賞対象地域＞ 1-7 地域※1	特別優秀賞 「arietta(アリエッタ)」 ＜受賞対象地域＞ 3-6 地域※1	特別優秀賞 「WoodsHill(ウッズヒル)」 ＜受賞対象地域＞ 5・6 地域※1 優秀賞 「WoodsHill(ウッズヒル)」 ＜受賞対象地域＞ 3・4 地域※1
特別表彰	貢献賞※2	—	—
	特別優秀企業賞		

※1省エネルギー基準による地域区分

※2省エネ性に優れた住宅を多数建てて普及に貢献したことを評価する賞

「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」は、省エネルギーやCO<sub>2</sub>削減等にご貢献する住宅の普及と快適な住まいの実現にご貢献することを目的に、建物外皮と設備を一体とした省エネルギー性と、販売実績や設計・施工における標準化といった普及性を評価し、優れた住宅を表彰する制度です。



今回、各賞を受賞したアイフルホーム、フィアスホーム、GLホームは、断熱性・気密性に優れた躯体性能をベースに、それぞれが独自の通風・創風・採光などのパッシブエネルギーの活用、無駄な電気の使用を抑えるためのHEMSや蓄電池などの提案を行っており、住まい手が快適に過ごせる工夫を取り入れた住まいづくりに取り組んでいます。結果、これまでにハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジーを受賞したシリーズの建物を3ブランド合計で5000棟以上竣工してきました。

LIXIL住宅研究所は、今後も、商品やサービスを通じて、安心・安全で健康・快適に暮らせる住生活の未来にご貢献します。

### 【報道関係者のお問合せ先】

(株)LIXIL住宅研究所 広報・宣伝部 担当:千明(チギラ)

電話:03-5626-8251 メール:kazuhiko.chigira@lixil.com

LIXIL住宅研究所ホームページ/TOP URL:<http://www.lixil-jk.co.jp/>

本ニュースリリースは、本日、国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会にて、広報発表しています。

## 【参考】アイフルホーム

### 優秀賞「セシボ」(1-7 地域)

『セシボ』は、「こどもにやさしい は みんなにやさしい」をコンセプトにキッズデザインの考え方を取り入れ、「すべての世代にやさしい家づくり」を目指して開発した住宅です。環境問題、安全性、快適な室内環境、経済性、そして家族の絆と夢など、住宅が解決しなければならない問題を見つめ、「家そのもので出来ること」を“もっと ずっと”追求した住まいです。

#### ●建物外皮・設備機器について

建物外皮性能は、外皮平均熱貫流率( $U_A$  値)、冷房期の平均日射熱取得率( $\eta_{AC}$  値)とも 1-7 地域の各基準値をクリアする性能としました。

暖冷房、換気設備等の設備機器は高効率機器を採用し、太陽光発電システムは、初期支出なしで導入可能な支援サービス「楽暮らし(ラクラシ)発電」を展開。その他、一次エネルギーの消費量を抑える性能・機器の活用と、創エネ設備を導入しやすいサービスを提案しています。

#### ●多様な省エネルギー手法の導入について

エネルギーを使わない工夫としてパッシブエネルギーを活用しています。温度差換気を利用した「創風」、風の通りを考えた「通風」、窓の配置などを工夫して風を取り入れる「採風」などの工夫を採用。また、建物内に外部の影響を取り入れないため、屋根と壁には遮熱の工夫をし、南面の窓には日射遮蔽効果のあるシェードを採用するなど快適性とエコ生活を両立します。

また、キッチンや洗面などの水回りには節湯・節水に配慮した水栓、保温浴槽、節水型便器を採用し、照明はLEDとしました。さらに、幼児期からの環境意識醸成のため、子どもでもスイッチを押しやすい「高さ 1mのスイッチ」などにより省エネルギーに配慮しています。

#### ●省エネルギー住宅普及への取り組み

アイフルホームは、ZEHビルダー登録事業者として 2020 年度までのZEH住宅普及目標を 50%以上と掲げ、省エネ住宅の普及に取り組んでいます。2016 年度は 5%の目標に対し 9%を達成しました。さらに、未来へ向けて持続可能な社会を作るための研究開発や、オリジナルCADによるZEH判定・生涯シミュレーションの提案など、様々な方法で省エネ住宅の普及に取り組んでいます。



(左)アイフルホーム「セシボ」外観



(右)実験住宅「次世代レジリエンスホーム『家+X』外観



ZEH判定レポート



<通風・創風イメージ>

## 【参考】フィアスホーム

### 特別優秀賞「arietta(アリエッタ)」(3-6 地域)

『arietta(アリエッタ)』は、北海道基準をクリアする最高水準の断熱・気密性能をベースに、風や光などの自然エネルギーを活かす工夫を盛り込み、未来へと永く住み継がれる住まいを目指しています。

#### ●建物外皮・設備機器について

樹脂系断熱材と構造用パネルを一体化させたオリジナルの『粘震+eパネル』で建物全体を囲うことで、北海道基準をクリアする最高水準の断熱性能を実現。さらに、付加断熱により $U_A$ 値※ $0.30\text{W}/\text{m}^2\cdot\text{K}$ という欧州の高い基準に並ぶ断熱性能を実現した商品もラインアップしています。

また、気密性能の自社基準をC値(隙間相当面積) $1.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下と定め、全棟測定を実施したところ、実物件の平均値は $0.47\text{cm}^2/\text{m}^2$ で、基準を上回る実績となりました。暖冷房や換気設備等の設備機器には、太陽光発電システムや地中熱を利用したヒートポンプ式エアコンなどの再生可能エネルギーを活用する住まいを提案しています。

※ $U_A$ 値:外皮平均熱貫流率を指します。外皮平均熱貫流率は、住宅の断熱性能を表し、数値が小さいほど性能が高いことを表しています。北海道基準は $0.46$ 。

#### ●多様なエネルギー手法の導入について

自然の力を活かして快適に過ごせる『パッシブ設計』を取り入れました。通風では、全居室2面開口や、複数の形状の窓を組み合わせることで大きな通風効果を得られる窓「フル3Dウインドウ」、袖壁の内側に入った風を屋内に取り込むウインドキャッチ提案などを採用。また、軒の出を深くすることで、夏季には日差しや熱気の進入を抑え、冬季には日差しをたくさん取り込みます。

#### ●省エネルギー住宅普及への取り組み

フィアスホームは、ZEHビルダー登録事業者として2020年度までのZEH住宅普及目標を50%以上と掲げ、省エネ住宅の普及に取り組んでいます。2016年度は5%の目標を大きく上回る10%達成しました。さらに、設計段階での省エネ効果を年間光熱費・一次エネルギー消費量削減率(ZEH適合判定)に置き換えて提案する「eレポート」や、施工した建物の気密・断熱・燃費性能を数字・グラフで見えるようにした「性能報告書」を邸別に用意。性能を見える化してお客様に提供しています。



<フィアスホーム「arietta(アリエッタ)」外観>



<「eレポート(左)」と「性能報告書(右)」>



<袖壁によるウインドキャッチ提案>



## 【参考】GLホーム

### 特別優秀賞『WoodsHill(ウッズヒル)』(5-6地域)

### 優秀賞『WoodsHill(ウッズヒル)』(3・4地域)

「WoodsHill(ウッズヒル)」は、建物の強さや耐久性、省エネ効果など、普段は目に映らない箇所まで工夫した「美しく住まい、美しく暮らす家」をコンセプトにしています。木造建築の世界基準であるツーバイフォー工法を日本の気候や風土に合わせて進化させ、北米建築に見られる高いデザイン性、ゆとりを楽しむ暮らし方提案などを取り入れています。

#### ●建物外皮・設備機器について

暖冷房効率に優れた「2×6 ハイパーモノコック構法」により、外皮平均熱貫流率( $U_A$ 値)※は、各地域の基準値をクリアする  $0.5\text{W}/\text{m}^2\cdot\text{K}$ 以下を実現。暖冷房設備、換気設備等の設備機器は高効率機器を採用し、一次エネルギーの消費量を抑える取り組みを実施しています。

※外皮平均熱貫流率：住宅の断熱性能を表し、数値が小さいほど性能が高い。

#### ●多様なエネルギー手法の導入について

地窓・高窓、袖壁、通風建具、吹き抜けなどの工夫を用いて自然の力を利用する「パッシブECOデザイン」の設計手法を用いた提案をしています。2つの窓を風の入り口と出口にして屋内に風を入れる「採風」、風上の窓から風下の窓へと空気の流れを遮らない「通風」、屋内の温度差によって高い場所にある窓から温かい空気が排出される「創風」、軒の出を深くすることで、夏の日差しは防ぎ、冬の日差しは取り込む「採光」などを実施できます。

水回りには節電・節水設備を採用しています。普通に暮らすことが、そのまま少ないエネルギーで暮らすことにつながります。

#### ●省エネルギー住宅普及への取り組み

GLホームは、ZEHビルダー登録事業者として2020年度までのZEH住宅普及目標を50%以上と掲げ、省エネ住宅の普及に取り組んでいます。2016年度は5%の目標に対し、11%と目標を大きく上回りました。また、光熱費・CO<sub>2</sub>排出量シミュレーションなど、省エネ住宅に住まうことのメリットをカタログや自社Webサイトなどで公開しています。さらに、消費者に分かりやすくZEHを紹介するため、オリジナルの「早わかりZEH Book」を制作するなど、様々な方法で省エネ住宅の普及に取り組んでいます。



<「WoodsHill」外観>

<パッシブECOデザイン>



<早わかりZEH Book>

